

MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第11号 2006年6月

もくじ

巻頭言・説得、これが難しい

平成18年度活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 川真田 直之

「我が家の環境大臣」活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 糸井 守

バングラデシュ衛生改善普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 保坂 公人

新会員紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 岩淵 敏男

巻頭言・説得、これが難しい

或る月刊誌を読んでいたら予て探していた文章がようやく見つかりました。

複雑な問題を説明するときも、シンプルで分かり易く、且つウソのないストーリーとして組み立てる必要がある。説明資料が何ページも必要だったら、広報はその時点で失敗している。

当たり前の話ですが、これが難しい。上記を誰か偉い人が言ってくれないかと長らく待ち望んでいましたが、ようやく“日本の戦略的広報外交の立ち遅れ”に関する評論に出ていました。勿論ここでは外交の話ではなく、自動車公害や緑の喪失で根強い反対の憂

き目に会っている外環問題です。

“環境を配慮した外環づくり”として議論すればよさそうなものですが、外環会議は既に4年経過し、交通渋滞による経済的損失は外環総工費1兆2000億円に達してしまいました。“議論は出尽くしている”という声もチラホラ聞こえます。役人の書く文章はミスを突かれまいという意識が過剰なため、関係するもの全てを書いてしまい、結局何のことか分からなくなってしまう。今の日本には環境問題以外にも同じ現象が散見できます。国民に本質を把握させる努力が乏しい。これも日本の行き詰まり現象の1つではないでしょうか。



平成18年度活動計画

川真田 直之

区分	名称	内容	参加予定者数(人)
自主	会報(MECCだより)の発行	年3回発行。	3
	ホームページの改良	体裁の改良。外部からのアクセスを容易にする。	4
		ホームページのランクを上げる(アクセスの容易化)。	
	会員の活動実績のデータベース化	EA21指導及びコンサルティング、その他の活動実績を個人別に記録。ホームページの会員専用ページに設け、各自が入力更新する。	
	EA21指導者養成事業	指導者及びコンサルタントとしての経験・情報の交換と研修。	8
		年3回程度実施(希望者の参加)。	
	EA21地域事務局東京中央の事業の支援	運営委員、判定委員、検討委員等の活動を通じて、MECCとしての東京中央の運営に対する意見を伝え、運営を軌道に乗せる。	10
	事業者のEA21登録認証取得推進	・多摩地区を中心とした自治体と協力し事業者の認証支援を行う。自治体担当者への説明及び事業者への説明会開催を自治体と共に行う。 ・MECCへEA21の導入指導を依頼してきた事業者に対し、事業者指導の経験・能力のある会員が対応して支援に当たる。	11
環境教育---環境省[我が家の環境大臣プロジェクト]の活用	MECC会員のメック・エコスターズ活動を先行させ、その実績を基に地域での環境教育と各家庭の環境保全活動に広げる。	2	
船による荒川・隅田川フィールドワーク	国土交通省監視船を活用し、東京の代表的河川の隅田川、神田川等の自然環境の観察を行う。環境活動指導者養成ワークショップの講座の行事としても活用する。	4	
受託	環境活動指導者養成ワークショップ	地域の環境活動を積極的に進めるため市民活動家の育成を行う。活動の実践者の拡大、ノウハウ化、武蔵野市NPO活動助成の活用。	5
	自治体受託環境プロジェクト	・武蔵野市から例年委託されている環境講座の実施、及び、グリーンパートナー事業への協力。小平市からも同様の受託予定。 ・立川市が新庁舎建設に当たりEA21を導入実施することへの支援活動。18年4月より活動開始見込み。	8
共催 後援	神田川サミット2006inむさしの・三鷹	例年開催している神田川サミットを今年は武蔵野市で開催。神田川ネットワークと共催で水系と水源地機能保全に関する活動を行う。	5
協力	身近な水環境の全国一斉調査	「全国水環境マップ実行委員会」の活動に協力。神田川上流部の調査を行う。	2
支援	神田川・井の頭池の外来魚調査	神田川と水源の井の頭池の外来魚の調査。武蔵野エコ・クラブに協力。	4
等	日野市緑の環境マップづくり	日野市の環境基本計画にもとづく緑の実態調査。協力者を募集。	2
	バングラデシュ衛生改善普及活動	・エコロジカルサニテーションの普及活動の実施(日本下水文化研究会)。 ・バングラデシュや愛地球博での啓蒙活動の資料化。	1

平成 18 年度計画概観

平成 18 年度総会は5月 11 日午後5時より吉祥寺本町コミュニティセンター会議室で行われました。主な活動は前ページ「平成 18 年度活動計画」に示しました。また執行部役員は全員留任することになりました。

○武蔵野市グリーンパートナー制度の実施を本年も継続します。グリーンパートナー制度とは、武蔵野市が環境経営を導入しようとする事業者の支援を行う制度で、この相談を NPO 法人武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) が受けています。

○小平市では事業者向け「環境及び省エネルギー問題相談窓口」を開設し、この相談を MECC が受けることになりました (パンフレット準備済)。これは武蔵野市グリーンパートナー制度とほぼ同じですが、ここでは相談内容を事業者に限定せず、小平市からの相談も受ける予定です。

第1回は6月 14 日で、全 10 回 (毎月第 2 水曜日午後) の日程が決まっています。1 社の相談時間は 1 時間以内で 1 社につき 2 回まで無料、それ以上は有料です。今

ほどの事業者も大小を問わず環境問題には真面目に取り組んでいるという姿勢を常日頃主張することが企業存続の第 1 条件の時代になったようです。また小平市津田公民館で、6 月に全 6 回の「親子の環境学習」を企画しており、対象は 20 家族の参加を目標としています。その内の 1 日が省エネルギーの話でエコダイラネットに所属する MECC のメンバーが担当します。

○エコアクション 21

八王子市では商工会議所主催による EA21 セミナーが 6 月 20 日に開催されました。これは後援 IGES、協力 EA21 地域事務局東京中央であり、様々なかたちで MECC が協力します。注目すべきはその広報規模で、既にパンフレット 5000 部を印刷し 4 千数百社に配布しました。EA21 も 1 セミナーにつきこれだけの募集広報をするようになりました。“自治体イニシャティブ”とは市区町村のイニシャティブの下に EA21 ベースの環境配慮経営を実行する地域事業者達の共同推進運動のようなものです。当セミナーについては八王子市商工会議所中小企業相談所にお問合せください。(Tel : 042-643-2231)

執行部役員

理事長	高橋 博良	理事(広報担当)	宇野 哲夫
副理事長(総務担当)	川真田 直之		泉 浩二
理事(企画担当)	藤井 健史	理事(立川支部)	藤野 良洋
	糸井 守	理事(八王子支部)	稲田 昂
理事(会計担当)	松島 正	監事	富川 昌美
理事(渉外/東京)	坂井 丈夫	監事(小平支部)	石田 義彦

「我が家の環境大臣」活動報告

糸井 守

我が家の CO₂ ダイエット活動は、意識はあるが実践行動は今一歩というところです。電気、ガス、水道、車、生ごみ等で、目に見やすく身体に直接感ずるような音・振動・光・臭い・動きのあるもの等については削減努力をしており、マイカーは大分昔に止めてしまったし、夏・冬のエアコン使用も極力少なくなりました。使わない部屋の電灯は消す習慣が身に付い

たし、クリーナーも省エネ型でフィルタ効率にも配慮している。ただ、テレビ、ビデオ、複写機等の待機電力の削減は実感が薄いため実践できていません。

今後は、きめ細かな削減行動とともに「エコクッキング」のような CO₂ 削減プラス経済的効果や生活快適化等の活動になることを考えて行きたいと思っています。

バングラデシュ衛生改善普及活動

これは“糞尿分離型トイレ”（エコロジカル・サニテーション）の話で、現時点ではMECC活動とは関係ありませんが、将来関係付けられる可能性もあるため、いわば構想段階としての紹介と考えてください（MECCにとっては構想段階の情報は多いほど望ましい）。この事業は地球環境基金から500万円の助成を受け、自己資金20%の海外ボランティアです。これが旨くいけばJICAからも支援が得られ大きな発展が期待されます。

このトイレのポイントは“分離”と“エネルギーは太陽光のみ”です。この他“移動しない”“地域内処理”もあります。バングラデシュで普及させるにはこうでなければならない。全工程1年で防臭にはワラ灰のみ使用、それでも現地では臭がわからないそうです。これは今年の愛地球博で紹介されて評判になり、現地バングラデシュでは新聞にも載りました。

実はこのようなエコロジカル・サニテーションは世界中で実用化に取り組んでいます。今のところ成功例は少ない

そうです。理由は“作っておしまい”、長続きしない、させられないのです。しかし当研究会の施設は昨年開始、今年3月初回成功、更に続けます。他と違うのは食循環をベースとした環境教育を徹底させ、健康な食物が手に入る実感を現地の人々に与えていることです。自然観察に取り組んでいる環境カウンセラーにとってトイレ問題は重大で、東京近辺では富士山や奥多摩御前山などトイレ不備による自然破壊は放置できません。白神山地のド真中や塩山柳沢峠に一見最新式のトイレを見ると、どんな仕組みになっているのか心配です。但し、バングラディッシュの話は自然循環の視点で環境教育に重点を置いていますのでプロジェクト自体の仕組みが違いますが、現地の事情を十分配慮しながら仕組みをつくる努力は大いに参考になると思います。日本では頭から“発酵させて臭気を消す”と考えますが、排泄物は乾燥させるだけで臭気は消えるそうです。その他海外ボランティアの進め方などMECCにとって学習すべき要素に満ちた事業ではないかと思えます。（保坂公人）

新会員紹介

岩淵敏男さんはこの4月からMECC会員になりました。以下本人からの紹介です。

定年を間近に控えた昨年の12月に30数年勤めた濃度計量証明会社を退職し、八王子市内の自宅に個人事務所を設立し独立致しました。在職後半で取組んだ品質や環境のISOシステムの自社での構

築・運用やコンサルティングを行ってきた経験を生かし、環境ISOやエコアクション21システムを中心とした審査や構築コンサル活動を今後のライフワークにしていくつもりでいます。また、環境カウンセラーの一員としてMECCの活動にも参加し、少しでもお役に立ちたいと考えていますので今後ともよろしくお願ひ致します。

編集後記

・文字になるものを作ることは意義深いことだと思うようになりました。環境のことを人々と考えていきたいと願う私には、広報はいろんなヒントを与えてくれそうです。(Y.N)
・会報を作り上げるのは、いろんな立場の人の間にたちコミュニケーションを図ることが最大の仕事という気がしました。(K.I)

・今回は広報担当3人がメール交信のみによってまとめました。作業の感じは1人の時とは全く違います。他の2人は次々と不安と不満に襲われたと思います。しかし今回の最大の目的はその不安と不満に関する情報収集にあります。それを1つ1つクリアすることが遠隔地協働作業を可能にし、環境カウンセラーの能力を支える重要な要素となる筈です。(T.U)

発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会 (MECC) 事務局
180-0023 武蔵野市境南町 1-30-1 Tel & FAX : 0422-31-7200
電子メール：QWK11724@nifty.ne.jp
ホームページ：http://www.mecc.or.jp/